

令和4年産

大崎稲作情報 第7号

令和4年7月22日発行

宮城県米づくり推進大崎地方本部

大崎農業改良普及センター

TEL:0229-91-0726 FAX:0229-23-0910

<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

今後の管理のポイント

- ・ 浸冠水の被害を受けたほ場は濁水の排水に努め、その後に間断灌水や浅水管理に移行してください。
- ・ 浸冠水の被害を受けた稲は抵抗力が低下しているので、病害虫（特にいもち病）の発生に注意してください。

1. 気象経過

7月第3半旬～第4半旬の最高気温は平年並で、最低気温はやや高め、日照時間は平年を下回りました。7月13日から7月16日にかけては記録的な豪雨となり、河川の破堤や越流などもあり、各地で浸冠水被害が発生しました。

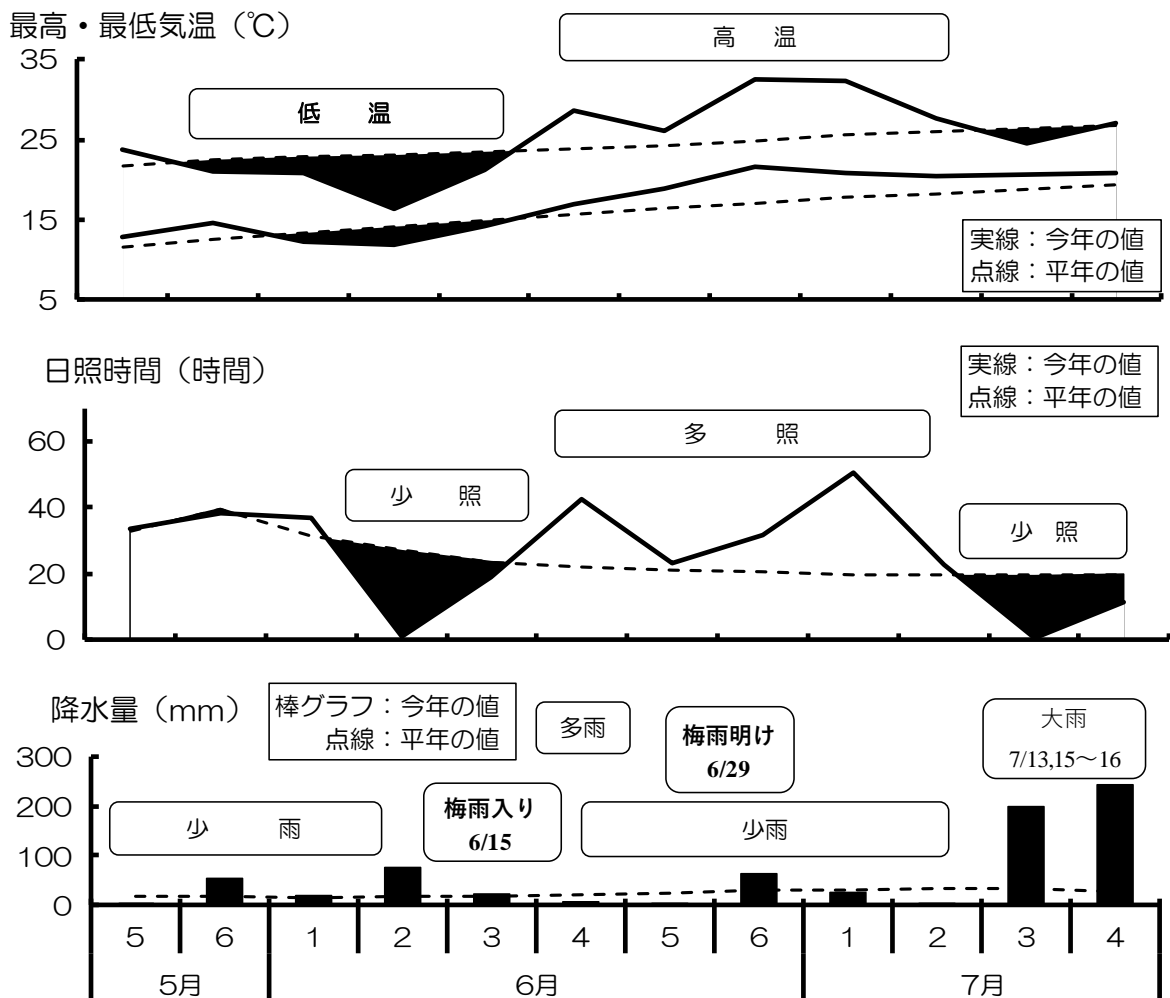
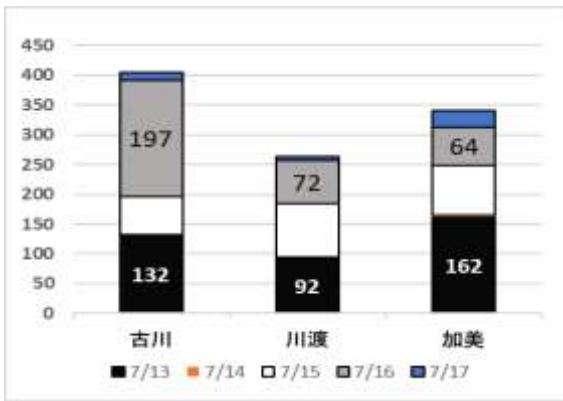


図1 5～7月の気象 (古川アメダス)



古川では7/13に132mm、7/16に197mmの降水を記録し、合計では400mmを超える記録的な豪雨となりました。加美町でも7/13に162mm、合計で341mmを記録しました。

名蓋川で破堤するなど、大江川・田尻川などが氾濫したほか、各地で浸冠水の被害が発生しました。

図2 7月13日～7月17日の降水の状況

2. 生育概況（7月20日現在）

草丈は平年を上回り、莖数は平年より少なめの傾向です。葉色は前回調査より低下していますが、概ね幼穂形成期・減数分裂期の目安の範囲にあります。

幼穂長調査の結果、移植栽培については全て幼穂形成期に達しており、移植時期の早いものについては減数分裂期に達しています。

表1 生育調査結果

品種名	地区名	田植・播種月日	草丈(cm) (平年比)	莖数(本/m) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	葉色(SPAD) (平年差)	幼穂長(mm) (平年差)	幼穂形成始期 (平年差)	減数分裂期 (平年差)	備考
ひとめぼれ	大崎市三本木	5月4日 (+1)	76.8 (100%)	490 (94%)	11.4 (-0.3)	36.1 (-1.7)	85.6 (+9.8)	7/5 (-2)	7/15 (-2)	
ひとめぼれ	加美町小野田	5月16日 (-1)	80.7 (111%)	467 (87%)	12.3 (+0.6)	41.4 (+3.0)	6.7 (-23.8)	7/12 (+2)		
ササニシキ	大崎市古川	5月7日 (-2)	73.4 (98%)	503 (89%)	12.2 (+0.0)	37.3 (+0.3)	25.2 (+3.2)	7/9 (-2)		
つや姫	色麻町四竈	5月4日 (+1)	80.5 (115%)	576 (110%)	12.4 (+1.2)	37.1 (-4.5)	6.2 (-0.1)	7/11 (-4)		前年比・差
だて正夢	大崎市三本木	5月15日 (-1)	79.8 (94%)	349 (74%)	11.7 (-0.9)	36.7 (+1.9)	11.5 (-23.0)	7/13 (+4)		前年比・差
金のいぶき	大崎市三本木	5月14日 (+4)	83.6 (102%)	470 (93%)	12 (-0.8)	34.8 (+4.2)	13.8 (-9.9)	7/13 (+4)		前年比・差
まなむすめ	加美町宮崎	5月10日 (-4)	73.5 (105%)	494 (99%)	11.6 (-0.3)	32.1 (-2.6)	102.9 (+66.7)	7/7 (-3)	7/15 (-4)	
ゆきむすび	大崎市鳴子温泉	5月23日 (+1)	61.2 (87%)	400 (125%)	-	44.3 (+5.1)	9.4 (-135.3)	7/14 (+6)		前年比・差
みやこがねもち	大崎市岩出山	5月17日 (-1)	70.5 (106%)	476 (92%)	12.2 (+0.3)	32.9 (-0.0)	3.2 (-2.1)	7/14 (-2)		
ひとめぼれ (湛水直播)	加美町米泉	5月6日 (+2)	71.4 (108%)	558 (103%)	10.8 (+0.3)	39.4 (+4.4)	0.8 (-2.5)			
平均 (平年値のあるほ場のみ)			75.0 (104%)	486 (92%)	11.9 (+0.1)	36.0 (-0.2)	44.7 (+10.8)	7/9 (-1.4)		

※平年比・差は前5か年（平成29年～令和3年）の平均値との比較

幼穂形成期・減数分裂期の平年差はマイナスは早く、プラスは遅いことを示す。

表2 生育ステージ予測

田植時期	田植始期	田植盛期	田植終期	7/19現在、7/19以降はアメダス平年値で予測。今後、高温で推移する場合は、予測よりも早まる場合がある。
	5月2日	5月9日	5月17日	
幼穂形成始期	7月7日	7月10日	7月15日	
減数分裂期	7月18日	7月21日	7月25日	
出穂期	始期	最盛期	終期	
	8月2日	8月5日	8月9日	
平年(10中8カ年)との差	3日遅い	2日遅い	平年並み	

※田植え時期はR4年の大崎普及センター管内平均。

3. 出穂前後の水管理

浸冠水したほ場では、流入した濁水等の排水に努めましょう。排水後には新しい水をいれ、**間断灌水や浅水管理に移行してください。**

(1) 基本的な水管理

【中干し → 間断かんがい（穂ばらみ期） → 浅水（出穂・開花期） → 間断かんがい（登熟期）】

- ・ 中干しは、遅くとも幼穂形成期前に終了する。
- ・ 根腐れが発生しやすく倒伏の危険性のある水田は、有効茎を確保する頃から落水期まで、飽水管理により、根の健全化と茎の充実を図る。

(2) 低温時の水管理

- ・ 幼穂形成期から減数分裂期にかけて日平均気温 20℃以下、または日最低気温 17℃以下が続く場合は、早急に深水管理を行う。

(3) 出穂後高温時の水管理

○走水等により土壌を常に湿潤状態に保つ飽水管理

出穂後の水管理を飽水管理で維持することによって、**昼間深水・夜間落水管理**ほどの効果は得られないが、湛水管理に比べれば乳白粒や胴割粒の発生が軽減できる。

※用水の確保が難しい場合にはできません **昼間深水・夜間落水管理**

晴天等の高温時において昼間はできるだけ深水管理とし、夜間は逆に落水管理とする水管理方法である。一日の用水温の推移を見ると、気温よりも数時間遅れて水温の低下が見られるので午前9～10時頃にかんがいし、気温が用水温を下回り始める午後4時頃に落水する方法です。

◆◆◆◆◆◆◆◆**農薬危害防止運動（6月1日～8月31日）**◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆6月から8月にかけて、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。
運動のテーマ 「農薬は 周りに配慮し 正しく使用」

東北地方 1 か月予報			
(7月23日から8月22日までの天候見通し)			
仙台管区气象台 発表※抜粋			
<予想される向こう1か月の天候>			
東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。			
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>			
		低い(少ない)	高い(多い)
【気温】	東北地方	20	50
【降水量】	東北地方	40	30
【日照時間】	東北地方	20	40
<気温経過の各階級の確率(%)>			
		低い	高い
1 週 目	東北地方	20	50
2 週 目	東北地方	20	50
3～4週目	東北地方	20	40

乾田直播栽培情報

乾田直播栽培調査ほ場も7月15日以降の豪雨により冠水しました。2日間ほどは冠水したとみられますが、7月20日調査時点では水は通常の水位まで低下しており、障害等の発生は観察されませんでした。冠水期間が長引いた場合は幼穂の枯死が懸念されますが、直播栽培では幼穂形成期前なので、幼穂枯死の心配は少ないのですが、分けつ抑制等の障害に注視していきたいと思います。



7/18の状況

7/20の状況

7月20日の生育状況は草丈61.6cm, 莖数664本/m², 葉数9.6枚, 葉色42.6で、順調な生育でした。